

佐岡地区中後入における空間的特質の一考察

渡辺 菊真^{1*} 楠瀬 慶太² 大西 悠³ 岡崎 廉³ 三島 宏太³

(受領日：2019年5月15日)

¹ 高知工科大学システム工学群

〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

² 高知工科大学地域連携機構

〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

³ 高知工科大学大学院社会システム工学コース

〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185

* E-mail: watanabe.kikuma@kochi-tech.ac.jp

要約：本稿は、高知県土佐山田町佐岡地区中後入の空間的特質を明らかにすることを目的としている。空間的特質とは地形の特徴、集落内の空間要素（街路、水路、居住地、聖地・葬地）の分布や方位など、対象領域における空間要素の各種特徴と、それらを総合することで把握できる空間の成り立ちを言う。佐岡地区中後入は香美市の平野部と山間部の境界に位置し、谷と尾根が東西方向に交互に連続する地形上に立地する。この複雑な地形の南には本村が、北には大後入、有谷、佐竹が接している。それゆえ一つの谷、尾根の全てを占有できるわけではなく、谷・尾根の一部は他の集落の土地となる。また、中後入には3つの小集落（西ノ谷、中ノ谷、東ノ谷）があり、それぞれが位置する地形や他集落との隣接関係が異なる。地形や他集落との隣接関係の違いが、空間的特質の差異を生み出すことが考えられる。本稿では複雑な地形や他集落との隣接関係の中で、中後入の集落空間全体がいかにかに形成されているかを空間構成図式として示すとともに、小集落ごとの空間構成や小集落間の関係についても空間構成図式として示す。中後入の空間的特質に対する一考察としたい。

1. はじめに

本稿は2017年度に行った「佐岡地区本村における歴史景観の調査」（以下「本村調査」）の続編である。「本村調査」では総合的歴史分析手法（歴史学、民俗学、建築学による総合的分析）を通じて中世から現代までの本村の歴史景観を1編にまとめて論じたり。2018年度も同様の手法により中後入を対象にした歴史景観調査を実施している。ただし、調査研究結果については2編の論考に分けてまとめている。1編は、歴史的・民俗学的手法により中世から近現代までの中後入の歴史的景観を論じており、これを別稿「佐岡地区中後入における歴史景観の調査」（以下「中後入歴史景観」）としている。本稿では建築学的手法によって、中後入の里山が健全に機能していた時代（1950年代）の空間構成と

その特質を明らかにすることを目的としている。ただし、空間構成考察にあたっては、民俗学的手法、すなわちヒアリング調査によって得られた知見を援用している。2編に分けることで、1. 時間軸に沿った地域の歴史景観の成立と変容を明らかにする。2. 現在に見る歴史的空間要素の重なりを、空間構成図式として提示し、空間的特質を示す。この2つの目的をより明瞭な形で示すことができると考えている。もちろん、一方の論考が他方を補完しており、総合的な歴史景観の調査は2編をもって完成する。

2. 対象地域の概要

対象地域は高知県香美市土佐山田町佐岡地区中後入である。佐岡地区は物部川中流域の中では最下流部の右岸に位置する。同地区は本村、佐野、仁

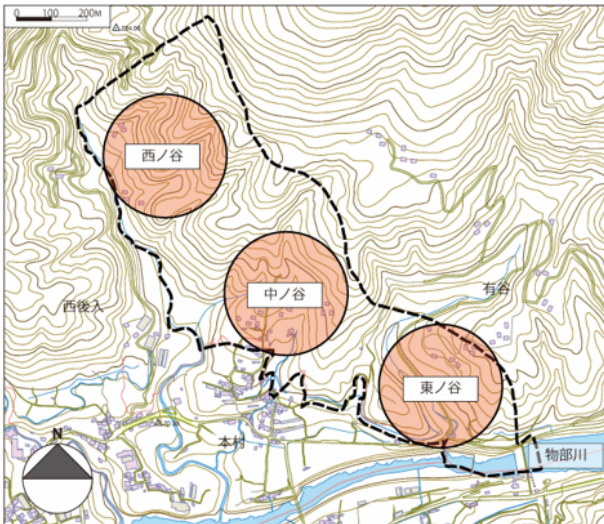


図1. 佐岡地区中後入の字界と3集落^{注1)}

井田、大平、中後入、大後入、西後入、有谷、佐竹の9つの大字から構成される。中後入は南に本村、西に西後入、北に大後入、有谷が位置する。本村は佐岡地区の中心地であり平地を多く含む「町場」集落である。一方、西後入、大後入、有谷は山地集落である。中後入は平地集落と山地集落の境界領域に位置する。集落内には、西から東に向けて順に西ノ谷、中ノ谷、東ノ谷の3つの小集落がある(図1)。

3. 調査の概要

3.1 地図調査

地図により、地形、街路、水路、居住域、聖地・葬地など、空間構成要素の大まかな配置の把握を行った。地図は、国土地理院発行の1/25000地形図ならびに航空写真を使用した。

3.2 現地調査

調査は2018年4月から2019年4月までの期間に10数回に渡り実施した。調査ではゼンリン発行の住宅地図をベースマップとし、①民家を対象に、屋根伏せ、母屋と付属棟の確認、②聖地(村社、先祖八幡)の位置と向き、③葬地における墓石配置と向き、墓碑銘、埋葬年を野帳に記録した。なお、調査にあたってはGPSを帯同することで、地図では確認できない山中の移動ルートや墓地の位置の把握ができるようにした。

3.3 ヒアリング調査

民俗学の手法で住民にヒアリング調査を行った^{注2)}。ヒアリング対象は中後入の4人の古老(80代)である。なお、中後入に現在在住している古老は1

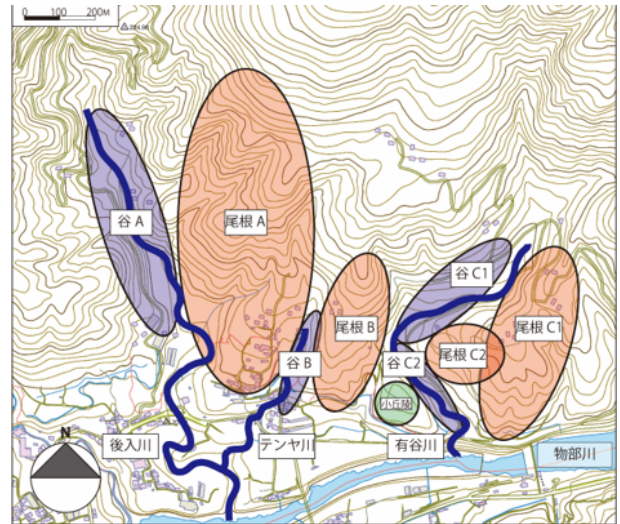


図2. 中後入の地形：谷と尾根、河川

人のみで、あとの3人は中後入生まれでありながら、現在は佐岡内の近隣集落に在住である。ヒアリング内容としては、旧佐岡村(佐岡地区)が旧土佐山田町に合併した1954年前後(昭和30~40年代)の集落の状況を中心とした。地名や生業、信仰の他に、屋号や生業などを聞き取った。

4. 中後入の地形

中後入は東西方向に流れる物部川の北に接して位置する本村の平地領域北の斜面地に営まれた集落である。地形としては谷と尾根が交互に連続する。谷と尾根の配列を西から東に向けて列挙すると、谷A→尾根A→谷B→尾根B→谷C(谷C1+谷C2)→尾根C(尾根C1+尾根C2)となる。なお、尾根Bと谷C2の間には小丘陵がある。小丘陵により谷Cは屈曲し、そこに尾根C2が「川岬」となって突出している。谷Aには後入川、谷Bにはテンヤ川、谷Cには有谷川が流れる。テンヤ川は後入川と合流して物部川に注ぎ、有谷川は直接物部川に接続する(図2)。

5. 中後入の空間要素の分布

5.1 中後入全体領域の空間要素の分布

図3において、中後入全体領域における空間要素の分布を示す。ここでいう空間要素とは街路、居住地、聖地、葬地の4つを指す。ただし、街路については他集落と連絡するものを「街路」として赤色実線で示し、中後入内小集落間を結ぶ徒歩道を「里道」として赤色破線で示している。また、空間要素の分布とともに、3つの小集落の領域を破線で囲っている。4つの空間要素の分布特性については、空



図3. 中後入の空間要素の分布

間要素ごとに以下に詳述する。

街路

本村を東西に走る県道土佐山田日御子線を起点に北側にのびる街路Ⅰ～Ⅳがある。3つの集落をつなぐ里道には、西ノ谷と中ノ谷をつなぐ里道 ia、ib、中ノ谷と街路Ⅲをつなぐ里道 iia、iib がある^{注3)}。

居住地

西ノ谷に a1、a2 の2箇所、中ノ谷は南向きの尾根に主たる居住地 b1 と、テンヤ川の谷を挟んで北側高台にある b2 の2箇所、東の谷は5つの家屋が比較的固まりながら散在する c1 と、有谷川下流に位置する c2 が見られる。

聖地・葬地

聖地は、村社(氏神)と無格社に絞って記す。村社では西ノ谷の金峯神社が居住域 a1 北側の谷奥にあり、中ノ谷東のテンヤ川の左岸に須賀神社がある。須賀神社は中ノ谷、東ノ谷共通の村社である。当地

の無格社としては里道 a2 の下方に山ノ神が位置している。

葬地は、複数の墓石群からなるものを対象とする。里道 ia を基準に上下に枝分かれする細道を辿ってアプローチする5箇所の葬地(地点 A～E)、同じく里道 ib に沿って立地する2箇所の葬地(地点 F と G)がある。また里道 iia からアプローチする葬地が1箇所(地点 I)、里道 iib 沿いには連続した葬地が4箇所ある(地点 H)。このうちの3箇所は家墓として集約されているが、家墓の脇に設置された墓誌から元来は個人墓群だったことがわかる。

有谷川右岸の街路Ⅲの西側上方に1箇所(地点 J)、小丘陵にまとまった大きな墓石群が1箇所(地点 K)存在する。さらに東ノ谷の居住地近くには多数の墓石群を持つ葬地が1箇所存在する(地点 L)。なお、葬地の立地、墓碑銘、建立年代等をまとめると(表1)のようになる。江戸時代建立の墓石を含

表 1. 中後入の葬地と墓石群属性の一覧

集落名	接続里道	地点	埋葬氏名	正面方位	墓石建立年代	備考
西ノ谷	i a	A	五百蔵,今西,田中	南	江戸～平成	
		B	五百蔵,田中	南	江戸～明治	谷地形にあり墓石の一部が下方に崩落している。
		C	五百蔵	南	大正	
		D	五百蔵	南	江戸～昭和	
	i b	E	五百蔵	南	江戸～昭和	
中ノ谷	i a	F	中内,五百蔵,長谷川	南	江戸～昭和	
	i b	G	川村	西	大正	
	ii b	H	吉川,川村,弘末,上村,西岡	南	昭和～平成	建立年代は基誌の記述によるものを含む。
	ii a	I	黒岩	南	明治～昭和	
東ノ谷	III	J	吉川	南	昭和～平成	
	III	K	吉川,西村,武内,小笠原	南	江戸～平成	
	IV	L	黒岩,五百蔵	南西/南	明治～平成	碑銘を読み取れない古い墓石が多数あり (江戸時代の墓石である可能性あり)。

む葬地が多く、遅くとも近世には成立した葬地だといえる。また墓石正面はそのほとんどが南面する²⁾。

5.2 西ノ谷の空間要素の分布

居住地は、a1（1 屋敷：現在高知工科大学里山工学活動拠点）と a2（2 屋敷：うち 1 軒は廃屋）の 2 箇所である。これらはともに後入川に注ぐ沢筋に寄り添うように立地している。生活に必要な水の確保を目的に立地したことが推測できる。なお、ヒアリングから a1 には 5 軒、a2 には 3 軒の屋敷があったことがわかっており、a1 が主たる居住地であった。山ノ神のすぐそばに、他の屋敷群とは離れた 1 軒があったが、現在は消失している。

街路は本村から西後入を経て北上し、大後入へと至る南北方向の街路Ⅰと、後入川から取水し、中ノ谷まで達する等高線に沿った長距離用水路添いの 2 本の里道 ia、ib がある。

聖地は居住域 a1 の谷奥に金峯神社（2016 年旧社殿解体）があり、里道 ib の尾根筋下方に山ノ神が立地する。また、居住域 a1 東に、目の神が祀られている^{注 4)}。

葬地は里道 ia から枝分かれする細道でアプローチする葬地 A～D が立地するとともに、里道 ib 沿い下方に葬地 F がある。葬地 A～D は居住地上部に位置し、居住地より高い位置にある森中を葬地にするという垂直方向への隔てを有するものであり、葬地 F は水平距離の隔てを有するものと言える。前者は山中他界観を前提にしたもので、より異界への意識が強く、後者は村境界付近にあり、村界にある道祖神の位置取りに通じるものがある。

西ノ谷は、中後入の 3 集落のうち、唯一の谷地形

のみで構成された集落である。谷集落は谷水の直接利用（生活用水＋農業用水）という観点から言うと中世にまで遡る原型的集落様態の一つと考えられる。沢筋への居住地立地、独立した氏神、里道を基準にまとまって配置される墓地（垂直ならびに水平な距離的隔てを有する）など、空間構成が明瞭である（図 4）。

5.3 中ノ谷の空間要素の分布

居住地は、b1（9 軒）と b2（2 軒）の 2 箇所（計 11 軒）である。b1 は尾根の南向き斜面に営まれた居住地であり、中ノ谷の中心居住地である。

街路は本村の星神社から蛇行して北上する街路Ⅱが南北に走る。この道をさらに北上すると有谷の「イチドウ」に至る。聞き取り調査によると馬木道（物資運搬路）として機能していた。西ノ谷からは ia、ib の 2 本の里道が通じている。また東ノ谷方面へは街路Ⅱから b2 居住域を経て街路Ⅲに至る里道 iia と、街路Ⅱからテンヤ川の谷へ降りて、須賀神社を経由し街路Ⅲへと至る里道 iib がある。

聖地はテンヤ川左岸の須賀神社が村社として立地する他、居住域 b2 一角に先祖神が、居住域 b1 北端に「どんど」と呼ばれる小祠が祀られている^{注 5)}。

葬地は里道 ia から枝分かれした一連の墓地の中で最も中ノ谷よりにある E、里道 ib 添いの G がある。また東ノ谷へと通じる里道 iib 沿いにはまとまった葬地 H がある。居住地 b2 の南には葬地 I があり、里道 iia から枝分かれする細道を通してアクセスする。その他には比較的新しい時期（昭和末から現在まで）に山中から居住地近くに移設したと考えられる家墓が数基見られる。特殊なものとしては屋敷墓（屋敷地内に代々の墓石をまとめて設置する葬

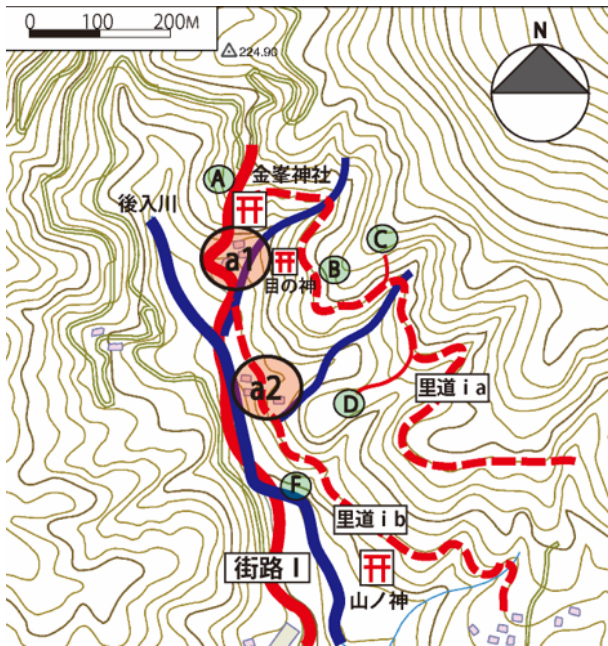


図 4. 西ノ谷の空間要素の分布

地)のある家が1箇所存在した。葬地Eは生活域との垂直的な隔てを有する葬地、GとHは水平的な隔てを有する葬地であり、西ノ谷の葬地設置と共通する。ただし屋敷墓や葬地Iはこの範疇におさまらない。

中ノ谷は尾根の南向き斜面を主たる居住地としている。中後入の集会所が位置し、中後入全体の中心地である。尾根の農地は西ノ谷から引いた2本の長距離用水路から利水している。ただし氏神はテンヤ川に寄り添う位置にあり、中ノ谷が直接谷水利用して農を営んでいた中世的生活とリンクする位置にある。葬地については西ノ谷と概ね共通する性質をもつものの、それ以外のものも見られる(図5)。

5.4 東ノ谷の空間要素の分布

居住地は、c1(5軒:うち1軒は空家)とc2(1軒)の2箇所である。ヒアリングによると昭和20年くらいまでは8軒の家があったという。

街路は本村の星神社から斜面の裾野を東に向かい、尾根と小丘陵に挟まれた谷地形を北上して有谷へと至る街路Ⅲがある。また、有谷川河口から有谷川に沿って北上し居住地c1へ至る街路Ⅳ-1と、同じく河口付近から谷斜面上を蛇行しつつ北上し居住地c1に至る街路Ⅳ-2がある。これらは居住地c1で合流し、蛇行しながら北に隣接する有谷へと至る。

聖地は、居住地c1内に先祖神A(黒岩家)が、居住地c1から街路Ⅳ-2を下った位置に同じく先祖神

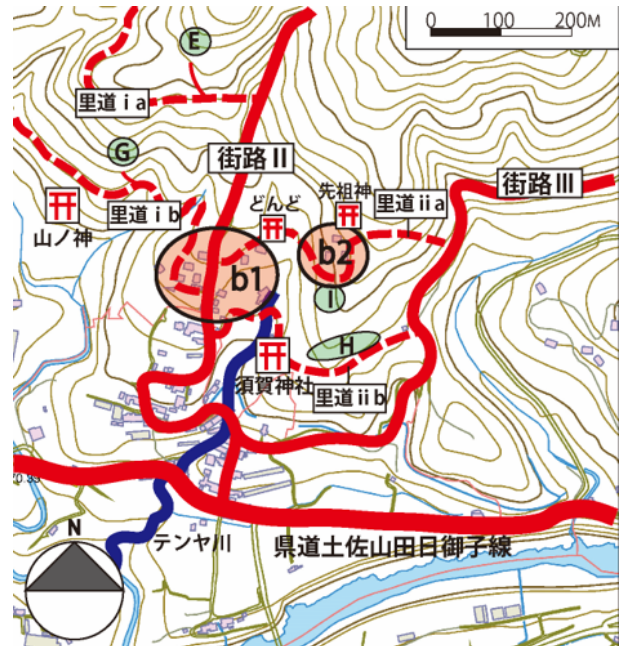


図 5. 中ノ谷の空間要素の分布

B(五百蔵家)がある。このうち前者は「川岬」状の様相を呈する尾根C2の先端にある。特殊地形に設置することで聖地の空間性を高めている。村社は中ノ谷の須賀神社であるため、東ノ谷内には立地しない。

葬地は有谷川の谷を挟んで向かい側の尾根Bの東斜面に葬地Jが、小丘陵頂部に葬地Kが立地している。また居住地c1のすぐそばに葬地Lがある。ヒアリングによると居住地c1内の現農地内に江戸時代のものと思われる墓石が2基あることがわかっており、この農地に「ヤシキ」という屋号が称されていることから、かつては屋敷地であり、この墓は屋敷墓であったことが推察される。

東ノ谷は、有谷から屈曲しながら続く尾根先に主たる居住地を持つ。有谷川が形成する谷の集落でありながら、谷奥は有谷という別集落であり、西ノ谷のように谷奥に村社を祀ることはできない。事実、村社は遠方の須賀神社である。そのことに起因するのはわからないが、居住地のそばに比較的規模の大きい先祖神が2箇所祀られており、一方は「川岬」という特殊地形にあり、聖地としての空間性を高めている。葬地についても谷上方の山地は有谷であるため、そこに葬地を営むことができない(垂直的「隔て」を持つことができない)。まとまった墓石群は有谷川の谷を挟んだ対岸の斜面や小丘陵に立地し、水平的な隔てが見られる。居住域内の先祖神の規模の大きさ、居住地そばの葬地の存在は、居住域によりそう聖地葬地の設置意図がみてとれる。



図6. 東ノ谷の空間要素の分布

その一方で谷対岸の墓石群からは谷を介した向こう側 (=地形による水平的な隔ての強調) に葬地を見いだす心象もうかがえる (図6)。

6. 中後入の民家の構成

ここでは中後入にある民家の構成について述べる。対象とする民家は、母屋と納屋を備えたもの、あるいはその両者を原型にして形成されたと思われる家屋とする。現在の中後入内には空家も含めて20軒の民家が存在するが、上記を満たす民家かつ、目視でその様態が確認できた民家は11軒であった (図7)。

対象とする民家の、所属居住地、屋敷地形状、母屋と納屋の配列、母屋正面の向きをまとめたものが (図8) である。なお、屋敷地形状、母屋と納屋の配列類型については先行研究にならった³⁾。

対象民家の母数が少ないため、ここから読み取れることには限界があるものの、幾つかの傾向が見て取れる。まず母屋正面の向きであるが、7軒が真南から東西に30度の振れ幅で収まっている (図8にてピンクでハッチングしている7軒)^{注6)}。

南から振れ幅30度というのは Passive Solar System において、冬期の日射による集熱効果が真南と同等の範囲を指す。約64%の住居が良好な冬期集熱の条件を備えている。その一方でほぼ西向きなのが1軒のみ存在した。次に屋敷地形状であるが、「ヨコ」が9軒 (82%)、「タテ」が2軒 (18%) である。「タテ」2軒については、地形の関係で最小限の造成で

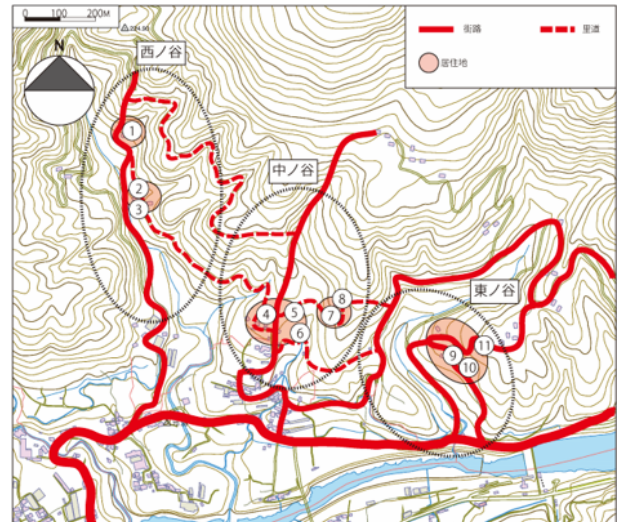


図7. 中後入における対象民家の位置

は南北方向を長軸にした長方形区画しかとれないことに加え、母屋の南面が重視されたことによる。母屋納屋配列では並列が5軒 (45%) であり、次いで鉤が4軒 (36%) である。この2つが主要な型といえる。先行研究によると物部川流域圏中流部の斜面地における屋敷構えは屋敷地形状がヨコかつ母屋納屋配列が並列なものが6割をしめ優勢とされているが、中後入ではそこまで顕著ではない^{注7)}。

ここで民家を構成する3要素が「特殊なもの」の立地を見てみる。方位が西向き、かつ、母屋納屋配列が「二ノ字」の屋敷がある。これは西ノ谷居住地 a2 に位置する。屋敷地が上下二段にまたがることから地形的制約が極めて大きい敷地であることがうかがえる。屋敷地形状が「タテ」の2軒は中ノ谷居住地 b2 に位置する。これら居住地は各小集落の主たる居住地から離れた位置にある。地形上の制約が大きい中で余儀なくとられた措置だと考えられる。逆に母屋正面: 南面、屋敷地: 「ヨコ」を無理なく備えられる場所が主たる居住地を形成している。なお、蔵を備えた屋敷は4軒であり、そのうちの3つの蔵 (75%) が屋敷地内の右前に位置する。これは物部川流域圏中流部の屋敷構えの統計 (右前が80%) と同様の傾向である。

7. 中後入の空間構成

先に述べた通り中後入は谷と尾根が交互に連続する地形上に営まれている。谷地形、尾根地形を図式化し、街路、居住地、聖地、葬地を配置すると (図9) のようになる。

西ノ谷は純粋な谷集落であり、沢沿いの南面する傾斜地に主たる居住地が位置する。居住地の谷奥に

集落	居住地	No	母屋正方位	屋敷地形状	母屋納屋配列	備考	凡例
西ノ谷	a1	①				屋敷地右前に蔵あり。	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>屋敷地形状</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; margin-right: 5px;"></div> ヨコ </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 60px; margin-right: 5px;"></div> タテ </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; height: 30px; margin-right: 5px;"></div> 正方形 </div> </div> <p>母屋と納屋</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #4CAF50; margin-right: 5px;"></div> 納屋 </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #F44336; margin-right: 5px;"></div> 母屋 </div> </div> <p>母屋納屋配列</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-right: 5px;"> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #4CAF50; margin-right: 2px;"></div> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #F44336; margin-right: 2px;"></div> </div> 並列 </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 5px;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-right: 5px;"> <div style="width: 10px; height: 30px; background-color: #4CAF50; margin-right: 2px;"></div> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #F44336; margin-right: 2px;"></div> </div> 鉤 </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="display: flex; align-items: center; margin-right: 5px;"> <div style="width: 15px; height: 10px; background-color: #F44336; margin-right: 2px;"></div> <div style="width: 10px; height: 30px; background-color: #4CAF50; margin-right: 2px;"></div> </div> 二ノ字 </div>

図 8. 中後入における屋敷構えの類型

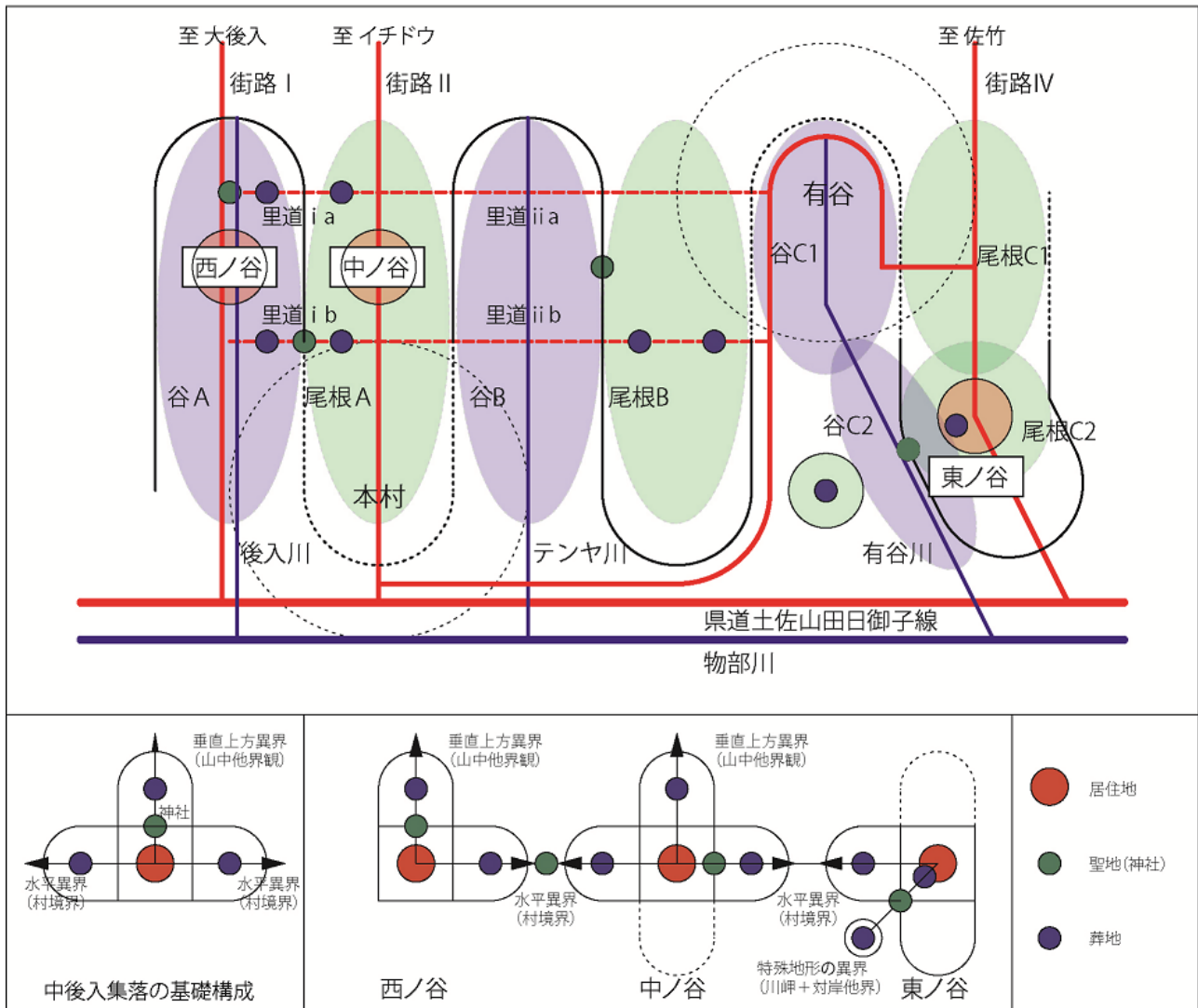


図9. 中後入の空間構成図式

村社、等高線に沿って走る上下2本の里道を基準にして葬地が配置される。上の里道沿いの葬地が垂直上方の隔てを備え、下の里道沿いの葬地は居住地から水平な隔てを備えて立地する。

中ノ谷は尾根Aと谷Bからなる。主たる居住地は尾根A上に位置するが、尾根下部は本村となり、尾根地形全てを占有していない。聖地は谷Bを形成するテンヤ川に寄り添う位置にあり谷水を直接利用して農を営む中世型の空間に起因する配置といえる。葬地は西ノ谷と同様に垂直上方への隔てを持つものと、水平方向の隔てを持つものがある。ただし、この範疇にない葬地もある。

東ノ谷は尾根B東斜面と谷C(C2)、尾根C(C2)からなる。尾根C2に主たる居住地c1が立地するが、尾根C1は有谷があるため尾根や谷Cの全てを占有できてはいない。有谷は谷C1を中心に、3つの小集落が谷を囲み、谷奥に氏神があるという、西

ノ谷と類似する空間構成を持つが、東ノ谷は尾根・谷の下方のみの占有となるため、この構成をとることはできない。そこで聖地や葬地については独自の構成によって聖性や異界性を高める必要がある。具体的には先祖神を「川岬」という特殊地形に設置することや谷C2の対岸という、単なる水平距離の隔てではない地形的特質を加味した場所に葬地を設置していることが指摘できる。また、先祖神や葬地が居住域の側にあり、屋敷墓と思われるものも存在することから、居住地を近くで守護するような聖地・葬地の配置もあわせ持つ。

中後入全体での空間構成を見ると中ノ谷と東ノ谷は同じ村社を祀ることで信仰上の連結を果たす。西ノ谷は自律(独立)性が高いものの、山ノ神の信仰を通して中ノ谷とのつながりを持つ。また水平距離の隔てを有する葬地は集落をつなぐ里道沿いにあり、里道ibにおいては西側の西ノ谷の葬地、東側

に中ノ谷の葬地が位置し、集落を物理的につなぐ道が葬地を介して精神的にもつながっていく。これと同様なことは里道 iib にも見られる。

別項「中後入歴史景観」によると、現在の中後入を構成する3集落は中世では隣接する別の集落であったことが示されている。西ノ谷は「中後入村」、中ノ谷は「大屋敷村」、東ノ谷は有谷川を挟み、西（右岸）が「河内村」、東（左岸）が「遅越村」である。この歴史的経緯からか、現在においても各集落は空間的な独立性が高い。しかしながら、信仰や里道でのつながりを介した葬地の存在など、精神的な役目を担う空間が3つの集落をつなげている。

8. まとめ

①中後入は地形的に谷と尾根が東西方向に連続する地形を持つ。

②中後入における主たる居住地は、西ノ谷では谷地形に、中ノ谷では尾根地形に、東ノ谷では尾根地形に位置している。ただし東ノ谷の尾根は川岬を形成し有谷川の谷を介して対岸をのぞむような位置にある。

街路は本村を東西に走る県道土佐山田日御子線から北に伸びる街路 I~IV と、集落間をつなぐ東西方向の里道 ia と ib（西ノ谷と中ノ谷を連結）、iia と iib（中ノ谷と東ノ谷西部を連結）が見られた。街路 I~IV は他の集落へと通じる。

聖地は西ノ谷の村社：金峯神社と中ノ谷・東ノ谷共通の村社：須賀神社が存在する。氏神が集落内がない東ノ谷では先祖神が居住域そばに2箇所存在する。そのうちの一つは川岬という特殊地形に設置することで聖性を高めている。また西ノ谷と中ノ谷をつなぐ里道 ib 下方に山ノ神があり、この聖地への信仰が西ノ谷と中ノ谷をつないでいる。

葬地は集落間をつなぐ里道を基準に配置されているものが多い。その中で居住地上方の山中に営まれる、垂直上方向に居住地から隔てられたもの（山中他界観に裏打ちされるもの）、居住地から離れた里道沿いに設置される、水平方向への隔てを見せるもの（村落境界に異界性を見るもの）の2種がある。また、東ノ谷では居住地のすぐそばに葬地を営むものや屋敷墓と思われるものも存在し、先祖神とともに居住地そばで先祖の霊や神が守護するような様態をとる。

③西ノ谷では、谷地形内にある2つの沢の細流に沿って2つの居住地を定めている。谷と沢による直接利水は中世の様態を原型にしていると言える。谷奥の氏神についても同様である。

④中ノ谷は主たる居住地を南向きの尾根に定めている。この尾根上の農地は西ノ谷からつづく長距離用水路からの利水によって成り立っているが、聖地はテンヤ川に寄り添い、谷川の直接利水を前提にする中世空間に起因するような配置である。葬地は垂直的隔てを持つものと水平的隔てを持つものがあり、西ノ谷との共通性を見せるが、それ以外のものも存在する。

⑤東ノ谷は村社が地域内にない。逆に居住地そばには2つの先祖神と葬地、さらには屋敷墓がある。居住地対岸には水平的隔てと、川岬と小丘陵が谷を挟んで対峙するという、特殊地形が形成する空間性を重ねあわせた葬地が立地している。居住地そばで守護する聖地葬地と、水平的隔てを地形で強化した聖地葬地の二種が併存する。

⑥中後入の民家は主たる居住地では、方位「南」、屋敷地「ヨコ」、が多く見られ、主居住地から離れた居住地ではその他の構成が見られた。原則として南向きのヨコ長に造成しやすい土地を主たる居住地としたことがうかがえる。

⑦中後入の空間構成を図式化すると、西ノ谷が谷、中ノ谷が尾根、東ノ谷が尾根に主たる居住地を定めている。ただし、中ノ谷は尾根下方が非占有、東ノ谷は谷上方が非占有である。街路は南北方向に他集落へ通じ、3つの集落は東西方向の里道で通じている。聖地を谷奥に持つ西ノ谷は3集落の中では自己完結的である。南北方向の街路と東西方向の里道がクロスする中ノ谷は中後入の中心地であり、他集落との中継点でもある。谷上方に有谷があり、谷地形として完結できず孤立的な東ノ谷は、居住地そばに聖地葬地を備えることで空間的な不安を打開し、村社を中ノ谷と共有することで連携している。また集落をつなぐ里道に沿う聖地や葬地により、3集落を物理的にだけでなく精神的にもつないでいる。

脚注

- 注1) 図1～図7は国土地理院発行の基盤地図の上に図や記号などを加筆して作成している。
- 注2) ヒアリング調査は楠瀬慶太を中心に、九州大学の歴史学研究室が行っている住民の暮らしや生活の記憶を民俗誌として記録する手法を採用している。
- 注3) 街路は、他の村落間をつなぐ機能をもつ道とし、里道は村落内の小集落をつなぐ機能のみをもつものとしている。機能による分別であり、幅員の差、舗装の有無という物理的特性による分別ではない。
- 注4) 木製の小祠。目の神には御神体がなく、後にガラスの水晶玉をこしらえてまつている。東ノ谷の五百蔵先祖神の祭礼と同じ日にお祭りを行っている（ヒアリング調査による）。
- 注5) 木製の小社殿。横山家先祖の横山弥助が背負ってきたとされる神様。佐野と中ノ谷の横山家2軒で年1回祭る（ヒアリング調査による）。
- 注6) 方位は8方位とし、例えば、南は真南から東西方向へ22.5度ずつの範囲としている。ちなみに4方位（真方位から45度ずつの範囲）では11軒の屋敷のうち10軒が南を向く。
- 注7) 中後入の主たる居住地では、屋敷の消失や、屋敷内建築の更新が進み、元来の母屋納屋配列が確認できないことが、中流部屋敷構えの統計的傾向との差異を生んだものと思われる。ヒアリングによると西ノ谷に昭和50年頃にあった9軒の屋敷（現在確認可能なのは3軒）のうち、7軒は蔵を所有していたといい、本格的な屋敷構えを有する屋敷が多かったことがうかがえる。

文献

- 1) 池内 克徳, 藤原 駿, 渡辺 菊真, 楠瀬 慶太, “佐岡地区本村における歴史景観の調査”, 高知工科大学紀要, 15 巻 1 号, 2018.
- 2) 渡辺 菊真, “香美市の中山間地域にある古民家周辺の聖地・葬地の現況”, 高知工科大学紀要, 13 巻 1 号, 2016.
- 3) 若林 寛和, “物部川流域圏中流部における屋敷構えの空間特性”, 高知工科大学大学院社会システム工学コース 2018 年度修士論文.

Consideration on Spatial Quality of Nakagonyu Village, Saoka District

**Kikuma Watanabe^{1*} Keita Kusunose² Haruka Onishi³
Ren Okazaki³ Kota Mishima³**

(Received: May 15th, 2019)

¹ School of Systems Engineering, Kochi University of Technology,
185 Miyanokuchi, Tosayamada, Kami City, Kochi 782–8502, JAPAN

² Research Organization for Regional Alliances, Kochi University of Technology,
185 Miyanokuchi, Tosayamada, Kami City, Kochi 782–8502, JAPAN

³ Infrastructure Systems Engineering Course, Kochi University of Technology,
185 Miyanokuchi, Tosayamada, Kami City, Kochi 782–8502, JAPAN

* E-mail: watanabe.kikuma@kochi-tech.ac.jp

Abstract: The aim of this paper is to consider the spatial quality of Nakagonyu village, Saoka district. Spatial quality means overall quality of architectural compositions, such as geographical features, location, architectural frontality, direction, arrangement of spatial elements and so on. Nakagonyu village is located in border area between plain area and mountain area in Kami City, Kochi. In Nakagonyu village, there are a several valleys and ridges that draw the stripe patterns on the earth. Nakagonyu village is located on complicated geographical features. In Nakagonyu village there are three small villages that have different characteristics of topological features and surroundings. It would be possible that those differences cause the differences of the spatial quality. On this paper the authors aim to make the spatial quality of Nakagonyu village clear based on field studies, and by drawing the diagrams of spatial composition.